

定期作況報告

平成 12年 7月
(7月 20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温は平年に比べ極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。降水量は平年並であった（平年比88％）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比175％）。

7月上旬：最高気温は平年に比べやや高く、最低気温は極めて高く、平均気温はやや高かった。降水量は平年並であった（平年比117％）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比62％）。

7月中旬：最高気温は平年に比べやや高く、最低気温は高く、平均気温は高かった。降水量はやや多かった（平年比176％）。日照時間は平年並であった（平年比84％）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は、気温がやや高く、降水量が多く、日照時間は平年並に経過した。

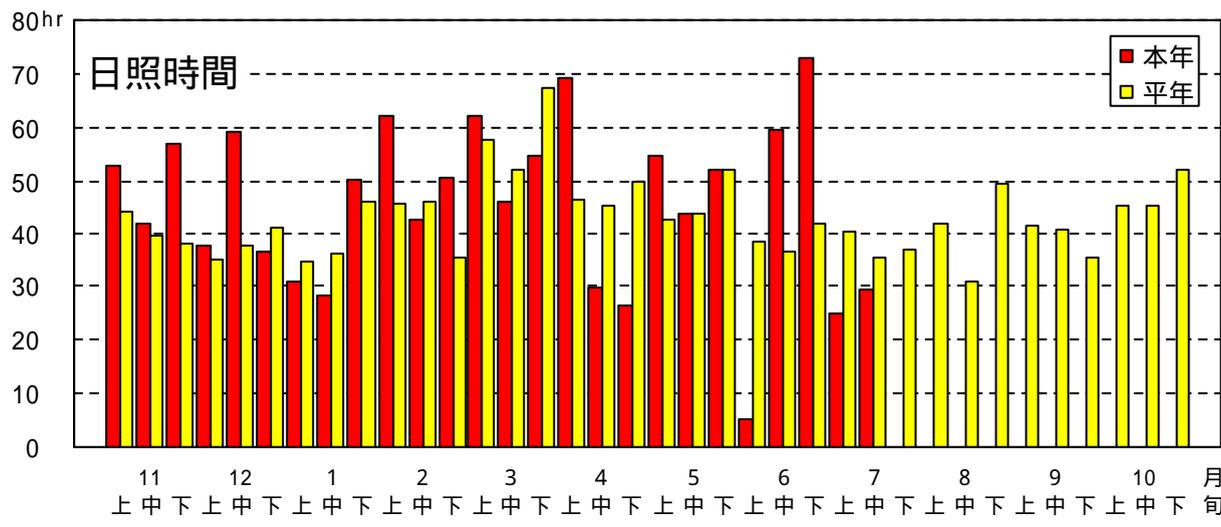
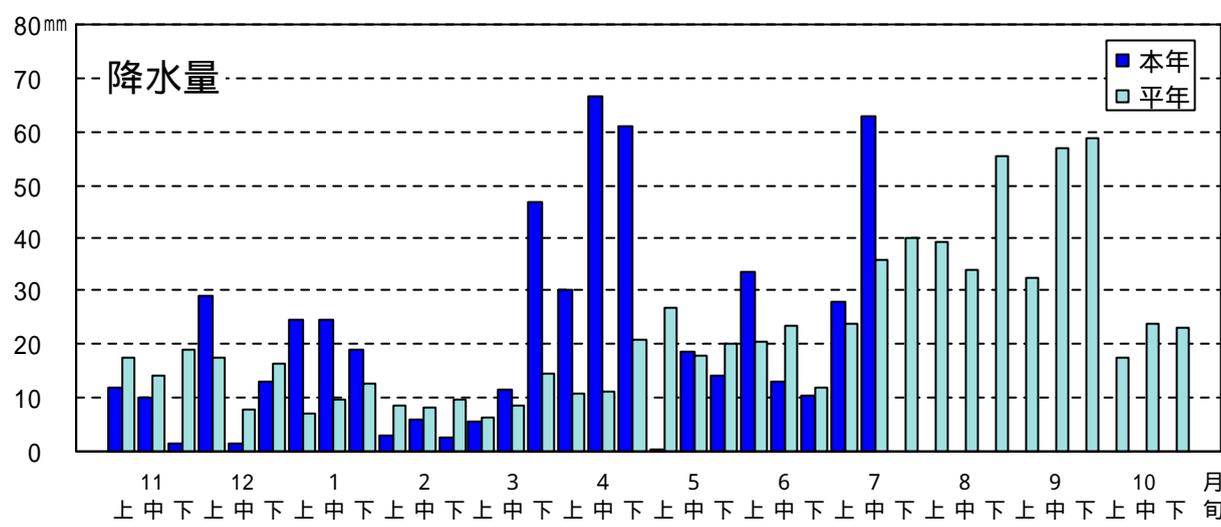
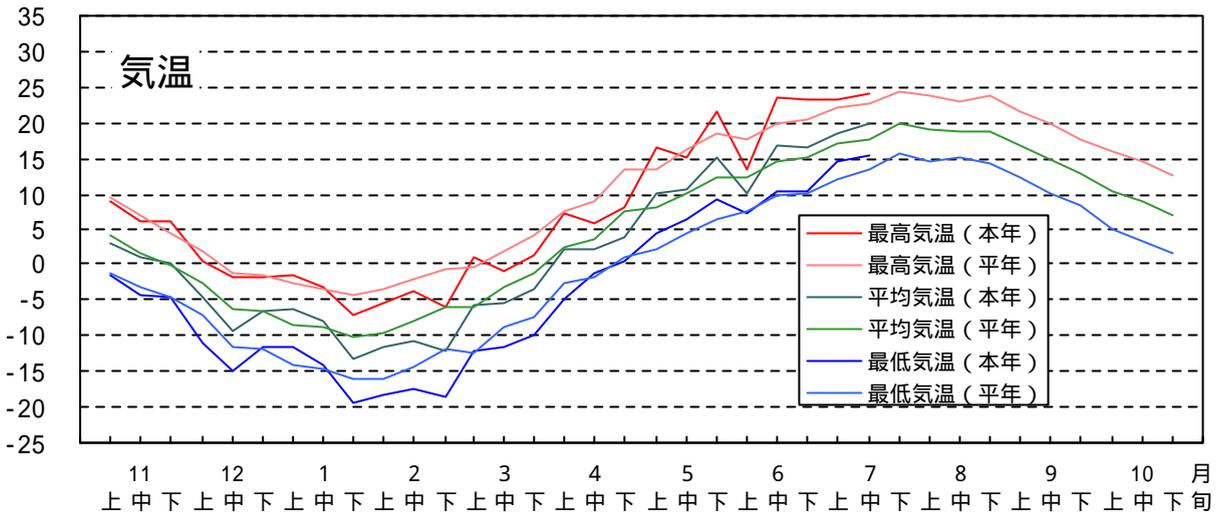
気象表

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	16.5	15.2	1.3	23.2	20.6	2.6	10.5	10.2	0.3
7月上旬	18.4	17.1	1.3	23.2	22.3	0.9	14.6	12.1	2.5
7月中旬	19.9	17.8	2.1	24.1	22.6	1.5	15.6	13.4	2.2
平均	18.2	16.7	1.5	23.5	21.8	1.7	13.6	11.9	1.7

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	10.5	11.9	1.4	72.9	41.6	31.3
7月上旬	28.0	24.0	4.0	25.0	40.2	15.2
7月中旬	63.0	35.8	27.2	29.4	35.2	5.8
合計	101.5	71.7	29.8	127.3	117.0	10.3

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は、平成元～10年の10か年間の平均である。



2. 当場の作況

1) 秋播小麦

作況：平年並

事由：平均気温は6月中旬以降、平年より高く推移し、また、適度な降雨もあったため秋播小麦は徒長気味の生育をしており、稈長は平年よりやや高い。穂数は品種によりやや傾向が異なるが全体ではほぼ平年並である。穂長はやや短いものの穂数は十分確保しており、平年並の収量が期待できる。ただし、台風3号や7月中旬の降雨により強稈性が弱い品種では倒伏が発生しており、雨による収量・品質の低下が懸念される。

以上のことから目下の作況は平年並である。

品種名	出穂期(月・日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/㎡)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タクネコムギ	6.8	6.7	1	101	96	5	7.6	7.6	0.0	925	848	77
ホクシン	6.13	6.11	2	90	88	2	8.1	8.4	0.3	723	764	41
チホクコムギ	6.18	6.15	3	97	93	4	6.9	7.1	0.2	729	705	24
ホロシリコムギ	6.17	6.15	2	101	100	1	8.1	8.4	0.3	613	646	33

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」は平成6年、8年、「ホロシリコムギ」、「チホクコムギ」は平成5年、8年を除く5か年の平均。ただし、「ホクシン」は平成8年、10年を除く3か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/㎡、その他の品種の播種量は340粒/㎡。

2) 春播大麦(二条大麦)

作況：やや不良

事由：出穂期は平年並の7月7日であった。6月より茎数は平年より少なく推移し、また、6月下旬以降の気温が高かったため、分けつが無効化が進み、穂数は平年より少ない。稈長は平年より短い。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品種名	出穂期(月・日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/㎡)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	7.7	7.6	1	83	91	8	6.3	6.2	0.1	547	625	78

注) 平年値は前7か年中、平成5年、7年を除く5か年の平均。

3) 春播小麦

作況：やや不良

事由：播種の遅れにより生育は遅れていたが、6月中旬以降の高温により、出穂期は逆に平年より1日早かった。しかし、全体の生育量は平年より劣り、稈長、穂長、穂数とも平年を下回っている。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品種名	出穂期(月・日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/㎡)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	7.1	7.2	1	80	89	9	7.8	8.2	0.4	485	508	23

注) 平年値は前7か年中、5年、9年を除く5か年の平均。

4)とうもろこし

作況：良

事由：6月下旬から7月中旬にかけて気温が平年より高く推移し、かつ降水量が平年並かやや多かった。そのため両品種とも生育は順調で、草丈が平年より高く、出葉数も平年並かやや多い。

以上のことから目下の作況は良である。

品種名	草丈 (cm)			出葉数 (枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ワセホマレ	161.5	116.9	44.6	11.0	10.7	0.3
ダイハイゲン	165.5	123.8	41.7	11.6	10.9	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成5年と平成9年を除く5か年の平均。

5)大豆

作況：やや不良

事由：6月下旬～7月中旬前半は平均気温が平年より高く、適度な降雨に恵まれたため生育は順調に進み、播種的大幅な遅れによる生育の遅延は回復傾向にあった。しかし7月中旬後半以降は低温・多雨に推移したため生育は停滞ぎみとなり、主茎長・本葉数・分枝数はいずれも平年を下回っている。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

6)小豆

作況：やや不良

事由：6月下旬～7月中旬前半は平均気温が平年より高く、適度な降雨に恵まれたため生育は順調に進み、播種的大幅な遅れによる生育の遅延は回復傾向にあった。しかし7月中旬後半以降は低温・多雨に推移したため生育は停滞ぎみとなり、主茎長・本葉数・分枝数はいずれも平年を下回っている。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

7)菜豆

作況：やや不良

事由：6月下旬～7月中旬前半は平均気温が平年より高く、適度な降雨に恵まれたため生育は順調に進み、播種的大幅な遅れによる生育の遅延は回復傾向にあり、「大正金時」の開花始は平年比1日の遅れであった。しかし7月中旬後半以降は低温・多雨に推移したため生育は停滞ぎみとなり、本葉数・分枝数および「大正金時」の草丈はいずれも平年を下回り、手亡類は主茎が軟弱徒長している。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

種類	品種名	開花始(月・日)			主茎長・草丈(cm)			本葉数(枚)			分枝数(本/株)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	キタムスメ	-	7.25	-	33.9	37.5	3.6	5.5	6.0	0.5	0.1	0.8	0.7
	トヨコマチ	-	7.23	-	35.5	36.4	0.9	5.8	5.9	0.1	0.1	1.5	1.4
小豆	エリモショウズ	-	7.27	-	7.9	10.5	2.6	3.9	4.6	0.7	0	0.1	0.1
	サホロショウズ	-	7.25	-	7.4	9.8	2.4	3.8	4.5	0.7	0	0	0
菜豆	大正金時	7.13	7.12	1	29.5	31.1	1.6	3.0	3.2	0.2	2.9	3.3	0.4
	姫手亡	-	7.22	-	33.4	28.2	5.2	6.0	6.1	0.1	4.7	5.6	0.9
	雪手亡	-	7.22	-	32.9	27.1	5.8	5.9	6.2	0.3	4.2	5.3	1.1

注) 平年値は前7か年中、大豆は平成5年と11年、小豆は平成5年と9年を除く5か年の平均。

菜豆は前8か年中、平成6年と8年および再播した10年を除く5か年の平均。

8) ばれいしょ

作況：やや良

事由：6月中旬以降気温が高かったため、開花始は平年に比較して「男爵薯」は7日、「紅丸」は6日早かった。開花後も高温傾向が続いたことから、茎長は平年より10cm以上短い、必要な葉面積は確保している。予備的に行った収穫調査では、いもの肥大は順調であり、でん粉価も高い。疫病は作況試験区のあるばれいしょ育種圃場内では未発生である。

以上のことから目下の作況はやや良である。

品種名	開花始(月・日)			茎長(cm)			茎数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	6.29	7.6	7	39	54	15	3.5	3.7	0.2
紅丸	6.30	7.6	6	68	78	10	3.6	4.0	0.4

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」「紅丸」とも平成6年と9年を除く5か年の平均。

9) てんさい

作況：やや良

事由：6月下旬から気温が高く、降水量も多かったため、地上部の生育は旺盛である。また、日照時間もほぼ平年並であったため、根部の肥大も平年を上回っている。

以上のことから目下の作況はやや良である。

栽培法	品種名	草丈(cm)			葉数(枚)			根周(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ	59.1	50.4	8.7	23.3	21.1	2.2	22.8	19.0	3.8
	ストーク	59.4	49.8	9.6	23.4	20.2	3.2	26.0	19.7	6.3
直播	モノホマレ	54.3	46.7	7.6	21.6	19.0	2.6	17.5	15.2	2.3

注) 平年値は前7か年中、移植栽培の「ストーク」は平成7、10年を除く5か年の平均、移植栽培の「モノホマレ」は平成7、10年を除く5か年の平均、直播栽培は平成5、10年を除く5か年の平均。

10) 牧 草

作況：不良

事由：チモシー混播・単播草地のチモシー出穂始・出穂期及びアカクローバ開花始は平年並か平年より3～4日早かった。またオーチャードグラス混播・単播草地の2番草は、草丈が低く、マメ科率がほぼ平年並で、乾物率及び乾物収量が平年より低かった。同草地の1～2番草を合算した乾物収量の平年比は混播草地で97%、単播草地で80%であった。またオーチャードグラス混播・単播両草地とチモシー混播・単播両草地の今月までの乾物収量を合計したものの平年比は89%であった。

以上のことから目下の作況は不良である。

チモシー混播・単播草地1番草出穂開花調査結果

草種	チモシー						アカクローバ		
	出穂始			出穂期			開花始		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	6.15	6.18	3	6.18	6.22	4	6.22	6.25	3
単播	6.17	6.17	0	6.22	6.22	0	-	-	-

オーチャードグラス混播・単播草地2番草調査結果(7月18日刈取り)

草地	草種	草丈(cm)			マメ科率(%)			乾物率(%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	オーチャードグラス	88	93	5	30.1	30.6	0.5	13.9	15.9	2.0
	シロクローバ	50	54	4						
単播	オーチャードグラス	62	80	18	-	-	-	19.4	22.8	3.4

同草地1・2番草収量調査結果(1番草：6月5日 2番草：7月18日刈取り)

草地	番草	生草収量(kg/10a)				乾物収量(kg/10a)			
		本年	平年	比較	対平年比(%)	本年	平年	比較	対平年比(%)
混播	1番草	2284	2043	241	112	313	290	23	108
	2番草	1674	1758	84	95	231	272	41	85
	合計	3958	3801	157	104	544	562	18	97
単播	1番草	861	1120	259	77	159	193	34	82
	2番草	731	817	86	89	141	183	42	77
	合計	1592	1937	345	82	300	376	76	80

注) 1. 各草種の品種はオーチャードグラスが「キタミドリ」、シロクローバが「カリフォルニアラジノ」、チモシーが「ノサップ」、アカクローバが「サッポロ」である。

2. 混播草地の乾物率は、イネ科・マメ科を併せた全体についてのものである。

3. 平年値は平成5年から平成11年までの前7か年のうち、オーチャードグラス・シロクローバ混播草地は平成9年と平成10年を、他の3草地は平成7年と平成11年を除く5年間の平均である。

11) たまねぎ

作況：やや不良

事由：7月5日までの生育はほぼ平年並であったが、それ以降、平均気温が高く、日照時間がやや少なかつたため、草丈の伸長が鈍った。7月20日現在、草丈は平年よりやや短く、葉鞘径はやや細く、葉身乾物重は軽いが、葉数、球径はほぼ平年並である。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品種名	草丈 (cm)			葉数 (枚)			葉鞘径 (mm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	71.2	77.7	6.5	9.1	9.2	0.1	16.5	17.7	1.2
北もみじ	69.4	81.2	11.7	8.5	9.1	0.6	15.3	17.6	2.3
改良オホーツク1号	65.1	72.3	7.2	8.7	9.5	0.8	15.9	18.0	2.1

品種名	球径 (mm)			葉身乾物重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	25.3	24.1	1.1	4.98	5.62	0.65
北もみじ	23.5	26.4	2.8	4.18	6.19	2.01
改良オホーツク1号	33.7	36.3	2.7	4.37	6.02	1.65

注) 平年値は、「スーパー北もみじ」が平成7～11年、「北もみじ」が平成6、8～11年、「改良オホーツク1号」が平成4、7～9、11年のそれぞれ5か年の平均。